

在宅取組型（小学校）

学校名等	神戸町立北小学校
実施日時	夏休み中と冬休み中
会場	各家庭
参加人数	全児童と保護者（215名）
学習課題（分野）	ふれあいラブラブデー
運営者の願い	毎日親も子も忙しい日々の中で、家庭教育学級の取り組みをきっかけに、親子の会話や家族の時間が少しでも増えること、親子の絆が深まることを願う。



学習の内容

<第1回>

前年度まで行っていた『ハグ週間』の続編として『ふれあいラブラブデー』と名前を変えてスタート。夏休み中、以下の2つの取り組みを家族で行ってもらい、夏休み終了後に取り組みカードを提出してもらおう。

★その1「家族でふれあいを感じることができる取り組み」

- ・取り組むことは各家庭ができる範囲のことで良い。（ハグ、スポーツ、散歩、料理、ゲーム、読書、お手伝い、読み聞かせ、はみがきチェック等…）
- ・取り組みカードには3日分の記入欄を設けているが、1日分でも良いことを児童に伝えたと共に明記した。

★その2「親子はみがき」

2週間分のはみがきカードを添付。裏面には、低学年（1，2，3年生）用、高学年（4，5，6年）用の歯に関するクイズを載せた。

↓

夏休み中に各家庭で取り組んだことと、歯に関するクイズの答えを文書にして配布。

夏休み後の結果

- ・花火をした ・ボーリングをした ・キャッチボールをした ・一緒に料理をした
- ・旅行した ・お墓掃除した ・ぎゅっとした ・トランプをした ・映画を観た など

<第2回>

「日常の子育てにおけるわが家の約束」をアンケート用紙に記入してもらい、冬休み中を強化週間として取り組んでもらおう。

↓

冬休み明けにアンケート用紙を提出してもらおう。

↓

集計して各家庭に紹介。

冬休み後の結果

- ・一日一回ハグ ・顔を見て挨拶をする ・子供の目を見て話をする、聞く ・「ありがとう」を伝える
- ・寝る前に「大好きだよ」と伝える ・たくさん褒める ・子供が話しかけてきた時はすぐに聞く
- ・毎日子供を遊ぶ時間を作る ・むやみに怒らない など

<取り組みを振り返って>

今回は、各家庭ができる範囲で親子または家族とのふれあいをするを目標に取り組みました。前年度まで夏休みと冬休みに行っていたハグ週間も多くの家庭が参加し、ハグの大切さを理解してもらっていましたが、家族構成や生活スタイルの多様化でごく一部にはハグをする行為でさえ辛いという意見もありました。しかしながらハグ週間や家族のふれあいをなくすのではなく、忙しい毎日だけれども、もう一度子供達との時間を見直して欲しい、大切にしたいという思いで進めていきました。シンプルな取り組みではありますが、実践するにあたり何をしようかと相談する段階でも家族間で交流ができ、終わった後も「楽しかったね」や「またしよう」などの会話も生まれることで、子供達の「親と一緒に遊びたい、同じ時間を過ごしたい」と願っている本質に保護者達が気づききっかけになれたのではないかと思います。



カードの裏面にクイズを載せることで、関心を持ってもらいやすくなりました。



それぞれの取組後に、各家庭での取り組みやアンケート結果をまとめ、配布した。